

宮城県産日本酒PRイベントin台湾 ～「台湾七夕」と「DATESEVEN <ダテセブン>」の饗宴～

台湾・台北市で宮城県内の7つの酒蔵が共同で造る日本酒「DATESEVEN（ダテセブン）」を旧暦の七夕（8月10日）にあわせてPRするイベントが開催されました。

本イベントには、日本からも製造酒蔵の代表者等が参加し、台湾現地の人々と交流を深めながら「DATESEVEN」と「宮城県産日本酒」の魅力を発信しました。

◆台湾の七夕とDATESEVEN

日本で七夕といえば一般的に7月ですが、台湾を含む中華圏では季節の行事を旧暦にあわせて行うため、2024年は8月10日（土）が旧暦の7月7日にあたり、その日が台湾での「七夕」となります。

台湾では2022年からDATESEVENが販売開始され、今年も7月7日から販売スタートとなりました。ようやくコロナによる渡航制限も落ち着き、海外との往来も正常化してきたことから、台湾の日本酒好きな人々にもっとDATESEVENと宮城県産日本酒の魅力を知ってもらおうと、日本からも製造蔵元が参加したうえで、今回のイベントが開催されることとなりました。



◆台湾の日本酒愛好家とDATESEVEN

8月10日（土）台湾の七夕当日にDATESEVENの製造蔵元と台湾の人々が直接ふれ合う交流イベントが催されました。

イベントには、事前に申込をした台湾の日本酒好きの人々が参加し、DATESEVENを飲みながら、日本酒について語りあったり、蔵元と一緒に記念撮影を行ったりしていました。

参加していた台湾人の方々にお話を聞くと「日本酒は大好き。特に甘めの日本酒が好み」、「日本に行ったときに飲んだ辛めの日本酒も美味しかった」などと日本酒に対するそれぞれの想いを話され、DATESEVENを楽しみながらの日本酒談議が会場内で繰り広げられていました。

また、現地で居酒屋を営む日本人経営者の方にもお話を伺うと「私のお店では日本の料理をメインに提供していますが、来店するお客様の8割は台湾人の方々であり、皆さん日本酒をよく注文されます。傾向としては、口当たりがよく、華やかな香りのお酒が好まれます」とのことでした。



◆DATESEVENと現地料理店とのマッチングイベント

台湾の一般消費者の方に「DATESEVEN」と「宮城県産日本酒」をより深く知ってもらうため、台湾にある中華料理店と日本料理店を会場に、事前予約をいただいた各店舗の常連さんや日本酒好きの方々を対象とした「DATESEVENと製造蔵元の日本酒」と「現地レストランの料理」とのペアリング晚餐会が8月9日（金）・10日（土）の2日間にわたり開催されました。

◆中華料理とDATESEVEN

初日は、ミシュランを獲得したこともある台北の中華料理の名店「大三元酒樓」を会場に開催され、店自慢の料理とともにDATESEVENと7つの蔵元の日本酒が振舞われました。

会場には、レストランの常連客とともに台湾のイベントサイトから応募した約60名が参加し、台湾の方々にとって身近な中華料理と日本酒との絶妙のペアリングに、皆さん舌鼓を打ちながら今年のDATESEVENを楽しんでいました。

また現地の販売代理店のスタッフによるDATESEVENと各酒蔵についての説明等も行われ、参加者は説明を聞きながら、手元の各酒蔵の日本酒を飲み比べ、自分の好みの味について語り合うなど大いに盛り上がりました。



◆日本料理とDATESEVEN

2日目は、台湾で長年日本料理店を営んでいる「和食 えん」を会場に開催されました。

当店では、グランドメニューにも宮城県産の日本酒（銘柄もDATESEVEN製造蔵元の一つ）が並ぶなど、普段から現地で日本の料理とお酒が好きな方々に人気のお店です。当日も各酒蔵の日本酒の特性に合わせた個性的な料理が振舞われ、日本酒と日本料理のベストマッチを追求した品々が提供される度に、参加者をうならせていました。

最後のデザートには、今回のイベントの為に当店の責任者がわざわざ宮城県の蔵元まで直接足を運んで仕入れてきた酒粕と宮城県の郷土食材「ずんだ」を使用した一品が振舞われ、いつもと違う味わいに食べた人からも驚きの声が上がっていました。

◆台湾での日本酒販売について

台湾でのDATESEVEN販売店であり、今回のイベント運営会社でもある、仲酩股份有限公司（JLK SAKE Co.,LTD）の生田英貴さんに台湾における日本酒販売の現状についてお伺いしました。

Q：事業内容について教えてください。

2022年から台湾で、ホテルやレストラン等に向けた日本酒の卸売と一般のお客様に向けた店舗での小売販売を行っています。店舗内にはお客様が気軽にテイastingできるようバーカウンターも設けています。



Q：台湾での日本酒の販売状況はいかがでしょうか？

台湾向けの日本酒輸出金額は、国税庁の調べによると2018年に約13億円だったものが、2023年には約26億円とほぼ倍になっています。さらに、近年は果実酒といったリキュール類も含め日本のお酒の需要が著しく伸びています。

Q：台湾で日本酒などを販売する際のポイントはありますか？

日本では多くの皆さんが知っている日本酒銘柄であっても、台湾の消費者の皆さんには知られていないものがたくさんあります。その為、ブランドのアピール方法に工夫が必要で、弊社でもお取引先向けに様々な形で認知度を高めるお手伝いをさせていただいています。



Q：台湾へ日本酒などの販売を検討している方へ一言お願いします。

皆様が丹精を込めて醸されたお酒を台湾の方々へ知ってもらう際には、良質な配送・管理方法を確保することが重要となります。また、お酒自体の紹介だけではなく、今回のイベントのようにペアリングのご提案や地場郷土料理を取り入れたメニュー開発を行うなどの地道な工夫と努力は欠かすことができません。



当行も本イベントに後援企業として参加しましたが、台湾における日本産商品の販売に多くの可能性を感じました。台湾は親日の方が非常に多く、最近では台湾から日本への旅行者も増加傾向であり日本のモノに対する関心の高さを現地でも随所に見ることができました。

一方、すでに多くの日本商品が展開されている当地においては、マーケティングや販売手法に工夫を凝らす必要性があることも事実です。

台湾をはじめとした海外ビジネスにご関心のある際は、まずはお取引のある当行営業店、もしくはアジアビジネス支援室へお気軽にお声掛けください。

（上海駐在員事務所 澤田洋介）

【お問合せ先】

七十七銀行 市場国際部 アジアビジネス支援室
TEL.022-211-9880

【Global Letter NEXT ホームページ】

その他の記事はこちらからご覧ください。

https://www.77bank.co.jp/kokusai/globalletter_next/



本紙記載の内容につきましては、当行が信頼できると考える情報に基づき作成しておりますが、その正確性、信頼性、完全性を保証するものではありません。法律上、会計上、税務上の助言を必要とされる場合は、それぞれの専門家にご相談いただくようお願い申し上げます。